

ご機言

福岡・徳養寺衆徒

江田 智昭 えだ ともあき



お寺の掲示板

もつとも

優しい

言葉は

その人の名を

呼ぶことである

(岐阜県関市・明淳寺)



新型コロナの影響で、会いたい人になかなか会えない状況が続いています。それに伴って、人の名を呼ぶ機会が減ってしまったのではないのでしょうか。

人間は自分の名前を呼ばれると、呼んでくれた人に対して親近感を覚え、ささやかな幸せを感じる習性があるそうです。昔、田中角栄という大変有名な政治家がいましたが、彼はさまざまな人々と会う際、毎回巧妙に下の名前を聞き出して、その名前を呼んでいたそうです。これはおそらく人間の習性をよく理解していたのでしょう。

また、毎年お正月に、箱根駅伝が行われていますが、そのテレビ中継の際、アナウンサーは出場する210人の全ての選手を絶対に一度はフルネームで呼ぶことがルールになっているそうです。それによって、出場している選手本人はもちろん、実家のテレビの前で応援している両親やおじいちゃん、おばあちゃんも、息子や孫の名前をテレビから聞くとうれしくなります。このように人の名を呼んであげる

ことは実に単純ですが、誰にでもできる優しさだと言えるでしょう。

浄土真宗では「南無阿弥陀仏」のお念仏をお称えしますが、それは「阿弥陀さまの名前をよぶこと」と言えます。そして、それは同時に「あなたを絶対に救う」という「阿弥陀さまからのよび声」でもあります。つまり、お念仏をお称えさせていただくことは、自分の優しさの表現というよりも「阿弥陀さまからのよび声を聞き、阿弥陀さまの限りない優しさを感じる」と深く繋がっているのです。阿弥陀さまはどんな時でも、私のことを常に心配して、温かく見守ってくださっています。

ですから、この世界で最も優しい言葉は「阿弥陀さまの名をよぶこと」、つまり、「南無阿弥陀仏」のお念仏だと言えるかもしれません。新型コロナの影響でなかなか人に会えない状況が続いていますが、このようなきこそ、ぜひ家の中で「南無阿弥陀仏」のお念仏をお称えさせていただきましよう。